

# アメリカ煙草是聞録

第1章 成田からコーンパイプへ

第2章 ニューオリンズとペリク

第3章 コーネル&ディール

第4章 レイノルズ

第5章 アメリカンスピリッツ(サンタフェ・ナチュラルタバコ社)

特別編 J&Rとガソリンスタンド

## 第3章 コーネル&ディール

ノースカロライナ州の場所は東は大西洋に面し、ニューヨークとフロリダの間あたり。西はアパラチャ山脈となっており、まさにオールドアメリカンで古くからタバコの産地です。主な都市も、ダーラム(シャグたばこの本拠)、ラーレー(タバコ市が開かれます)、ウィンストンセーラム(そのまま)といったたばこに関係した都市があり、アメリカでは一番タバコの州税が安い(1箱19セント)ところです。その為、同じマルボロでもニューヨークでは800円、ここでは300円というさが生まれます。それ故、J&Rといったタバコの大手ディスカウントストアも最大の店舗があります。コーネル&ディール社はノースカロライナ州の西、アパラチャ山脈のふもとといった感じのところ。

ちょっと別荘地のような木々に囲まれた住宅地の一番奥にありました。

なんと、普通のいかにもアメリカの平屋の住宅。

職員(家族)で温かく出迎えていただきました。

社長のクレイグさんは戦後進駐軍として北海道(対露関係?)におられたとのこと。

おちゃめで、明るく笑いのたえない人柄は製品のネーミングや絵柄にもよく現れています。

社名もクレイグさんと奥さんのミドルネームでこしらえ、いかにも歴史があるようだろうと自慢。

1989年に小さなパイプメーカーを買取り(といっても葉タバコと少々の機械?)イングリッシュミクスチャーのブームを

アメリカで興したといわれています、現在はグレゴリーピース氏のレシピによるGLPブランドも製造。

クレイグさんのお宅に入ると、右手の部屋が葉タバコ(刻んでビニールの袋いり)が棚にずらり。

左手の部屋が製造場、小さなプレス機と卓上の封緘機が機械らしいもの。

幅2m弱、奥行き50cmほどのステンレスの桶、これがブレンドする場所です。

我々もちょっとブレンドの真似事をさせていただきましたが、実際なんとなくすごく簡単?

勿論レシピのメモには数字だけでよくわかりませんが、仕様にあわせて横にある秤で刻みを計り

桶の中で何種類をまぜまぜ、そのとき、ちょっと香料も。

香料(らしきもの)もずらりと並んでいましたがさすがにラベルは番号だけ、

隅のほうに、ブランデーのビンやジョニ赤なんかがありました。

この会社の特徴としていわゆる保湿剤としてポリプロピレングリコールは使わないで水だけでやっているとのこと、

体に悪い薬品は使わないとおっしゃっていました、そのため一寸乾き気味になりやすいとのこと。

しかし、何故か、そのPグリコールがあるというのも不思議でした。

お庭(まさに自然に囲まれた)で天日乾しや、ローストする釜もみせていただきました。

また、各自の好きなラベルで一缶、封緘させていただいてお土産としていただきました。

そのご、なんと奥さんがビュッフェをご用意してくださっていました。

きれいなお庭をみながら、いかにも、アメリカのご近所が集まった心温まるパーティーという雰囲気を経験をさせていただきました。

その夜は、なんとお城のある観光地のリゾートホテルでクレイグ夫妻とお食事。

にぎやかな、楽しい、愛し合っているご夫婦とともに楽しい時間を過ごせました。

後日談として、8月にお会いしたとき、新工場の写真を見せて頂きました。

近くに40坪ほどの大きな工場を完成、社長と奥様それぞれの事務室ももうけており

高さもあり、2階部分が倉庫にしているとのことでした、

これから益々拡大していく意欲満々でした。

工場が変わっても作り方はそんなに代わらないと思いますが、

漬け込み等も自分の所でやりだせばもっとバリエーションを増やしていけるでしょうし、

今後に期待です。

## PHOTO



歓迎風景



原料倉庫



原料葉



ケーキをつくるプレス器械



プレスされたケーキ



葉をローストしている



ロースト釜の下側



元気はつらつの社長



極秘の配合表



軽量中



ブレンドする桶



ブレンドする為計量



三種類をブレンド



ブレンド作業中



フレーバー棚



第2のフレーバー棚、見慣れた物が・・・



裏庭で天日干し



充填作業場。社長



缶に蓋をする器械



ラベル棚



製品棚



裏庭の東屋



裏庭での奥さん



社長の車のプレート、ライト兄弟の地



社長夫妻

☆

☆

☆

☆

# アメリカ煙草是聞録

第1章 成田からコーンパイプへ

第2章 ニューオリンズとペリク

第3章 コーネル&ディール

第4章 **レイノルズ**

第5章 アメリカンスピリッツ(サンタフェ・ナチュラルタバコ社)

特別編 J&Rとガソリンスタンド

## 第4章 レイノルズ

その名もウィンストンセーラム市へ、もともとセーラム町とウィンストン町が1930年に合併してできた町。

オールドセーラムといわれる旧市街には元RJR社の煙突のある建物も残されています。

RJR社はリチャード・ジョシュア・レイノルズ(RJR)さんが始めた会社で戦前キャメルが大ヒットし、1957年にはセーラムを発売  
アメリカ国内では一時期トップにもなったタバコメーカーです。現在はご存知のとおり、海外部門を工場からブランド全てJTに売り渡しており  
RJRブランド商品はアメリカ国内向けのみ製造しています。

私たちが訪れた工場は巨大という言葉そのものの大きさでした、大きな平屋建てのようにみえますが高さが30m程もあり  
1分間に8000本の能力の巻上げ機が69台、製造しているタバコのブランドは50、アイテム数は700種。  
国内の某社の工場とは比較にならないサイズでした、これでも完成時は世界最大でしたが、現在がPM社、上海タバコに抜かれ  
世界第三位の大きさとのこと。工場内は写真厳禁でしたが、ほとんど全て自由に見せていただきました。

フィルターの製造過程には驚きました。大きな1m四方高さ1.5mくらいの白い塊からフィルターが紡ぎ出されていました。

写真撮影ができないのでご覧いただけられないのが残念です。

紙巻工程も要所はちゃんと見えるようになっていて結構オープンな感じでした。

さらに驚いたのが、資材置き場、上を見上げればコンテナ何個分の高さ、

下を見下ろしてもコンテナ数個分の深さの巨大空間に、コンピューター制御で全自動、映画の特撮場面のようなでした。

この大きな工場も従業員は2000人、平均年齢50歳、週5日稼働で一日3交代です。

主な製品はDORAL,SALEM,CAMEL,WINSTONです。

セーラムもブラックセーラムといって、パッケージがサイドスライド(JTのHRCと同じ)で黒色、KS,SKSが売り出し中。

BAT社のタバコも一部製造委託されているとのこと。(RJR社はBAT社の子会社になりました)

ようやく見学を終えてバスで出発、なんと、工場の敷地内で七面鳥が2羽うろろ、まさか飼っている？

工場の周囲は木々に囲まれ、公園のような自然一杯の場所でした。

## PHOTO



工場エントランスのポスター



工場入り口



会社の方々と



工場エントランスから周辺

☆

☆

☆

☆

Copyright (C) 2005 Sirius Tobacco Corporation. All Rights Reserved.

# アメリカ煙草是聞録

第1章 成田からコーンパイプへ

第2章 ニューオリンズとペリク

第3章 コーネル&ディール

第4章 レイノルズ

第5章 アメリカンスピリッツ(サンタフェ・ナチュラルタバコ社)

特別編 J&Rとガソリンスタンド

## 第5章 アメリカンスピリッツ(サンタフェ・ナチュラルタバコ社)

コーネル&ディール、RJR、サンタフェタバコとノースカロライナ州を西の奥から真ん中あたりまで3日300kmのバス旅行。クーラー効かない、バッテリーはあがるは結構なバス旅行でしたが、なだらかな丘がつながる広い広いアメリカを実感できました。

ようやくたどりついたサンタフェ・ナチュラルタバコの工場、国道から少しはいた工場地帯のようですが、なにぶん工場の周りは森しかみえない状態です、日本のように工場がくっついているなんて別世界です。

JTやRJRのような最新式の機械がないのでなんかがらんとした格納庫のような工場。

生産量が少ないのとはぼ単一銘柄(アメスピの青、緑、黄色はフィルターの違いだけ)の生産なので巻き上げ機械もそんなにありません。

生産現場に入るまえにちょっと会議室でレクチャー。

アメスピは無添加、無香料であることを強調したデモをやっていただきました。

比較はマルポロ、マルポロはタバコ葉の刻みひとつかみ、芯をふやかした素材をひとつかみ、タバコ葉の屑をペーパーにしたものを一掴み、これらをベースにブルーソース、ハーシーのチョコレートとシュガーをまぶして出来上がり(実際はもっと複雑です)。

一方、アメスピはタバコ葉の刻みだけですといった具合です。

このことは別にマルポロだけにかぎったことではなく、現在の紙巻の主流の生産方法です。

勿論正確にはマルポロはじめ、もっといろんな甘味料(リコリスとか)薬品が色々入っているのが今の紙巻。

アメスピの黒(ペリクが入っています)や両切りも吸わせて貰いました、黒はなかなかよかったです、生産量が少ないので日本への発売?のようです。

現場に入ると、原料のブラジル産のバージニアがおおきなダンボールで山積み、

アメスピはバージニアとちょっとオリエントのブレンドが基本ということです。

原料の違う製品は、はアメスピ黒(ペリク入り)、アメスピオーガニック(無農薬)があります。

さすがにオーガニックは原料葉はアメリカで生産しており、害虫を防ぐため、専用の畑の周囲はひまわりを植えているとのこと自然を考慮した生産体制になっています。

驚いたのは、生産現場には蒸気を入れて加湿をしていたことです、まさか蒸気が漏れているわけでもなく

結構生産ラインが開放的で簡単なので、全体を湿気させる必要があるようです。

実質的に単一銘柄製造みたいなものなので不良品の回収もどンドン再生に回しています。

香料かけた他社の紙巻ではそう簡単には出来ない芸当です。

ラインもびっくりするくらいゆっくりで、一番古い機械が1940年代、新しいので1980年代だそうです。

オーガニックのラインでは、人がダンボールに詰めていました。

従業員125名で2交代制で稼働しているとのことでした。

とにかく、見学は写真OK、どこを見てもいいということで、確かに、企業秘密なんて探しても無理なブレン工場です。

製品規格表をみせていただきましたが(写真は日本向け、アメスピメンソール)、重量の許容範囲が広いのには驚き、

見学が終わって、裏の駐車場で従業員の方とのバーベキューパーティーが待っていました。

どうりで、スタッフがお腹がすいたとか急ごうとか言ってたようで。

アメリカンなパーティー、子豚の丸焼き、フライドチキン、フライドポテトにパン、デニッシュ、甘い甘いデザートのでんこ盛り。

もう従業員のみなさんは食欲旺盛、我々はもうボリュームにびっくりでした。

## PHOTO



工場入り口



全商品



パウチ物



アメスピに入っているオリエントとバージニア



マルポロには?



これがマルポロ?



マルポロ等普通の紙巻き煙草の原料、  
刻み、芯、シート



色の濃いのがマルポロ



通常の紙巻きに入っている煙草シート



原料のバージニアはブラジル産



紙巻きが巻上げられる段階



工場内風景



工場は加湿していました



巻上げ機、なんとなくのんびり



開封した原料葉



細刻みライン



細刻されたバージニア



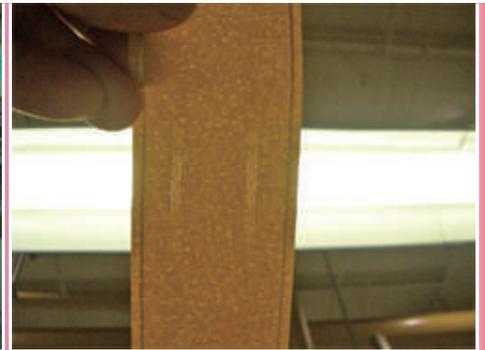
彼女は大きな中骨を取り除いている



この間隔はスローペースを物語る



パッケージ器械



ライト用の巻き紙の空気穴



不良品回収機、紙を切断して葉のみ回収



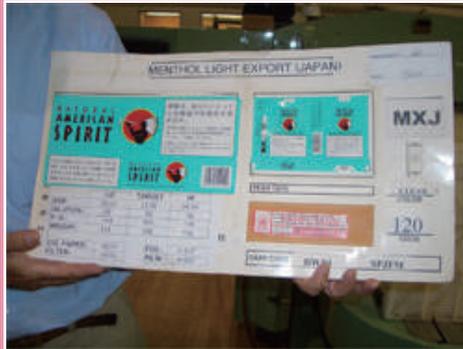
回収された葉



工場長



さすがにオーガニックは手詰め



日本向け規格表



パーティーの主役



工場裏の駐車場でスタッフ全員と

☆

☆

# アメリカ煙草是問録

第1章 成田からコーンパイプへ

第2章 ニューオリンズとペリク

第3章 コーネル&ディール

第4章 レイノルズ

第5章 アメリカスピリッツ(サンタフェ・ナチュラルタバコ社)

特別編 J&Rとガソリンスタンド

## 特別編 J&Rとガソリンスタンド

コーネル&ディール夫妻との晚餐を過ごしたイン・オン・ビルチモアホテルを出発後  
RJRへの途中、ルート40号線沿いのJ&Rに立ち寄りしました。

J&Rはもともとニューヨークにあったタバコ屋さんだそうで、州税の高騰にあわせて  
ノースカロライナに巨大タバコセンターを開業されたとのこと、とにかく  
葉巻の部屋といっても、バスケットコートくらいの広さの部屋に葉巻がぎっしり、  
みたこともない葉巻が多く、勿論ロメオやモンテも本場キューバものではなくドミニカ産です。  
雑貨も多く日本のジャパンやドンキの様です。

このJ&Rはショッピングセンターにあり、広い駐車場を囲むようにいろんなお店があります。  
広いアメリカならではの広大な商業施設だと思います、日本でまねをしてもこの広い国土ならではの存在価値といえます、  
なにしろ日本で普通にある商店街なんかアメリカの田舎では存在してませんから。

## PHOTO



広いSCの一部



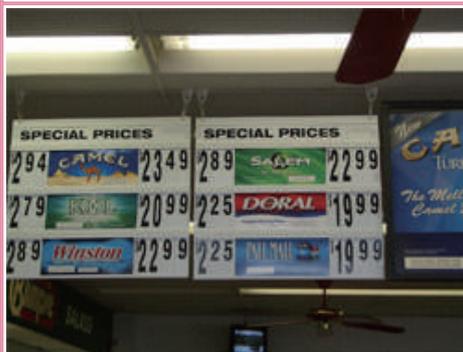
これ噛み煙草



巨大な葉巻売り場



見慣れないたばこも一杯



バラとカートン値段が違う



こんなにたくさん誰が買う?



ヒューミドルもお買い得?



看板安いね。

モンテのコーヒー?



紙巻きタバコ売り場

看板、ウイinstonも安い



知らない葉巻が山積み



日本でもありそう、でも安い



葉巻バラのセット

☆

☆